

地方独立行政法人新小山市民病院 第55回理事会 議事録

日 時：令和7年6月17日（火） 17：00～19：15

場 所：新小山市民病院2階さくらホール①②

出席者：佐田尚宏理事長、栗原克己理事、田野茂夫理事、川上忠孝理事、宮脇貴裕理事、西村美和理事、岩瀬勇監事、廣瀬眞二監事

事務局：関彰事務部長、大塚勝美事務副部長、布施由弘総務課長、関悟人事課長、大川剛医事課長、坂田普システム管理室長、本田晶紀総務係長、澤田直人施設管理係長、石田陽介人事係長、橋山直子診療情報管理係長、鈴木智広総務課主任、柳澤侑香里経理課副主任、関口裕太郎経理課副主任

会議経過

1. 開会
2. 理事長挨拶
3. 理事任命
4. 議事録署名人の専任 議事録署名人として栗原理事、田野理事を指名

発言者	内 容
5. 議事（佐田理事長進行）	
事務局	議案第1号「令和6年度決算報告及び事業報告について」事務局より説明。
監事	令和6年度の結論としては赤字決算ということではありますが、その関係で實際上その医業収益の方が上昇しているが、それを上回る経費の増加であると。経費の増加の中を見ても、材料費の関係での高騰というのは、あるいは努力によってより節約とか、そういった経費増を努力で多少でも抑え込むことが、あるいは可能なのかもしれませんが、給与等の人件費というのはこれはもう不可避の要素になっていると思う。一方で、医業収益の増収の関係では、診療費が公定されている関係で、ある意味では、回転率とか患者数とかそういったところでより増収を高めるところをちょっと眺めてみたときに、入院患者の関係で入院単価、回転を良くすることでかなり上げてきて、前年度令和6年度では7万円を超えているというところまでいって、一方において入院患者数が3,000人減少している。単純に入院単価と3,000人で計算すると、収入の関係でいくと2億1千万円くらいになる。入院患者の関係で見たときに、55ページの救急車搬送患者の関係で数字の推移を見てみたが、55ページの（2）救急医療の取り組みの関係で救急車搬送患者数に対する救急入院患者数の単純に比率で見たときに、令和2年度、令和3年度は70%を超えていて、令和2年度が79%で令和3年度75%と若干減少して令和4年度から67%ぐらい、それから令和5年度65%ぐらいで、令和6年度は前年比からするとちょっと回復して68%と、実は令和4年度から令和4、5、6年と救急搬送車に対する救急入院患者数。単純にそれと比較するのは間違いかもしれないが、救急車で入院患者がいるところからすると単純に割り切ることはできないにしても、救急入院患者が、不要な救急車利用というので初診時選定療養費をアップはさせたものの、それと連動するとすれば、救急車搬送者に対する入院患者の割合がちょっと比率が増えてもいいのか、と単純に思うが、逆に実際の実数を見るとむしろ下がっている。そうした時に救急入院患者であって、救急搬送者の減少というのが、この地域での救急患者の受け入れ病院が、周辺医療機関で増えている

発言者	内 容
	としても当病院に搬送される救急患者の中で、入院に繋がっている患者数が減少した要因というのはどこにあるのか。もしその実際に入院患者数の病室のフル稼働というか、稼働率を高める入院患者数の確保の関係上で見たときに、救急搬送患者の入院の比率が下がっている要因がどういうところにあるのか、ちょっとこれ分析してみる価値がありそうかなと。もちろんそれを分析した結果として、業務改善というか、財務的なものでの改善に役立つ要因が見つかって、それが改善できるのであればアタックしてみたほうがいいかと。ただ分析した結果、やはりそれは患者群の周辺の動向で違っていて、収益増には繋がらないかもしれないが、一応眺めてみて分析してみたらどうかと感じた。
理事長	ご指摘ありがとうございました。重要なご指摘です。令和2, 3, 4年度というのはコロナの影響があったので、救急搬送自体が減ったのです。それからまた最近はまだ救急搬送自体が増えてきていて、だからその中でどれぐらいの入院率が適正なのかというのは、十分に検討しなければいけない項目で、私自身そこは重要だと思っているのですが、まだ分析しきれてないので、そこは検討していきたいと思います。それで昨年は上半期に稼働率が落ちたのと並行して救急車の搬送台数が減ったのです。それが下半期はまた元に戻って、今年の上半期は昨年よりは増えているんですね。だからちょっとその辺も十分に分析は必要かなと思っているので、ご指摘頂きありがとうございます。
理事	先ほど理事長先生が言われた通り、令和6年度の4、5、6、7月の救急車搬送患者の入院率と、おそらくその下半期の入院率はちょっと違うのではないかと思います。おそらく前半分は重症患者も少なかったのです。つまり、心筋梗塞とかそういうのも非常に減りましたし、脳卒中の重症患者も4、5、6、7月は少なかったのです。一定の需要がある、例えば整形外科とか外科とかは、おそらくそんなに変わってないかもしれませんが、重症患者自体も前半少なくて入院率が低いのではないかと思います。だからこの影響はそこにあるのかなと思います。
監事	というのは、昨年度の赤字決算というのは恒常的になってしまうのか、あるいは一時的な要因に基づくものだとするなら、そんなに心配しなくてもよいかもしれないですけど、ちょっと感じたところです。
理事長	今年度はさっきお話したように、上半期の救急車の台数は昨年よりは増えてきています。昨年は上半期に他に光南病院であったり、周囲の二次救急の病院で搬送件数が増えて当院が減っているという、そういう状況があったので、そこが今年度どうなるのかこれからも検討していかないとなりません。、いわゆる応需していない件数が700件くらいあるのです。受けているのが4,000件あって、そのうちの200件くらいは受けられるけれど、いわゆる1次や2次の医療機関で診てください、というような救急車を応需しなかったという例があるのです。そういうことも含めて当院のスタンスをどのように取っていくかということも今後とも考えていきたいなと思っています。
監事	今の岩瀬先生のご懸念は、要するに、今期の赤字が一過性のものなのか構造的なものなのかという話なのですが、私の見解だと構造的な問題だと思います。赤字になったのは今年初めてなのですが、実際問題として考えたら3,4年前から赤字だったと思うのです。要するに、3,4年前のコロナが、結

発言者	内 容
	果としてもものすごく過剰な補助金を頂戴したものですから、補助金の利益が莫大だったのです。それで、実際にコロナが始まる前年ぐらいに病床稼働率は300床に達したということで、一回この理事会で私はっきり記憶あるのですが、まだコロナの考えが全くなかったのですが、この理事会で今年でいたい300床に達したと、来年からどうやって収益増やすのだという話で、ちょっと暗い雰囲気になったことをはっきり記憶があるのです。そのような形で言えば、まず病床稼働率が300床に達した、それは10年経てば300床に達するというのは当然のことだったので、それは令和2年あたりで分かっていたはずなのです。その時点で本来ならコロナがなくて、補助金も通常の3億4億ぐらいの補助金であれば、おそらくその辺から構造的に赤字が出てたと思うのです。今期がものすごく悪くなっているのは去年のインフレです。いわゆる円安が急激に進んで輸入物価の上昇があって、現時点でも全然インフレが収まってないという状況です。それがさらに追い打ちをかけて、本来ならば貰うべき補助金、要するに、この病院にとって不採算部門というのは相当あるわけですから、その分について100%を市役所から貰っていれば黒字になるのです。結果として行政コストが8億円もかかっているのに、実際に貰っている補助金は5億6,000万円ですね。要するに2億何千万円は足りないのです。補助金が。その辺を考えた場合、そこまでひっくり返して分析をやっていくと、補助金のマイナスが、発生した行政コストから収益を引いて、補助金で貰い足りなかった、というのが私の計算だと2億8,400万足りないのです。それで行政コスト、本来なら市民が負担するコスト、それを全部ちゃんとし市民病院に払ってもらって、市民が本当の意味で税金でもって市民病院の過剰コストを負担するのだという、その実績通りに貰っていたとすれば、2億8,400万が現金で入ってたはずなのです。そういう状態であれば補助金のプラスマイナスはゼロです。そうするとプラスで3億ないしは4億ぐらいの利益があったはずなので、そうすると問題は、構造的要因というのは、300床達してしまったということが基本的な要因なのです。それからもう一つは、行政がやってる病院ですから、民間の病院と全然違いますから、行政が市民病院をどういうふうに運営するかです。行政コスト計算書というのがあるのですが、単なる市民病院で発生をした費用を羅列しているだけで、何の意味もないのです。それをフォローする意味で、中期計画の3で、財務諸表9ページの上の方に、ローマ数字で「Ⅲ行政コスト計算書関係」というのがあります。損益計算書に行政コスト計算書というのが7ページがあるのですが、その7ページはこれ全く意味がないのです。損益計算書上の費用を単にピックアップして市民病院では113億8,700万費用がかかりましたよと言っているだけで。一体何なのってことなのです。それでそれをフォローアップする形で9ページのローマ数字Ⅲの行政コスト計算関係書類となってきているのです。それで市民病院でかかった経費で、医業費用から一般管理費から営業外費用から臨時損失、要するに全ての経費を集計すると、行政コストとして113億8,709万なのです。要するにこれが行政上のコストなのです。そして市役所が病院を行政目的に照らして運営していく過程で、収益として得た部分が105億9,700万円なのです。そうすると実際には113億経費がかかっているのに105億円しか市民病院は稼げなかった。その理由は、病床が300床で満床になっています。基

発言者	内 容
	本的にはです。キャパシティはもう絶対増えないのです。そういう状態の中で、機会費用、これは市役所が市民から得た税金を、市役所が市民病院に出資金として入れてくれた、その金利計算をやってみると、1年間で1,800万ぐらいの逸失利益があるはずだと。その逸失利益も市民病院が負うのですよと。市民病院がなければ税金で徴収した1,894万円は市役所の預金として利息を生んでいたはずだと。それを資本金としてずっと市民病院に置いておくわけだから、逸失利益が1,800万あるのですから、これも行政コストなのですよということで考えてみると、これを全部計算すると、純粋な行政コスト113億から、市民病院が稼いだ105億円引いて、市役所の観点から見た資本金に対する金利ですね、それが1,800万かかっていますよと。それ全体考えてみると8億800万円。これが住民が負担する行政コストなのです。市民病院があることによって、8億円ぐらいは市民が負担しなければならない税金だったはずですよ。8億円に対して、どれだけ実際に貰えているのかというと、その貰えている補助金は損益計算書から出てくるのですけども、合計すると5億2,400万なのです。そうすると行政コスト、本来なら市民が市民病院に対して負担してよいコストは8億800万あるのに、市役所は5億2,400万しか結果として払ってくれなかったと。本来なら貰うべき補助金が2億8,400万不足です。その不足が損益計算書にもろに出ているのです。その結果が1億500万のマイナスですから、もし、仮に市役所がこの足らなかった2億8,400万を全部払ってくれれば、今期の利益は4億近いのですよ。そういう状態なので、その辺をしっかりと分析をして市役所とぜひ協議をやってもらいたいです。これは市役所から全てをなるべく安い費用で運営して頂いて小山市の医療情勢を満足するものをしてもらいたいのは山々なのですが、今はそういう状態ではないのです。そのような形なので、その観点から言うと、私はこの自己評価には極めて不満なのです。事業報告46ページの下の方に、「第3 財務内容の改善に関する取組」がありまして、なぜこれが自己評価2なのですか？これ、去年が4で、経営基盤の維持と経営機能の安定化が図れてないのですか？これを4から2にしたというのは、単に初めて赤字を打ったからということでしょう。
事務局	昨年度も自己評価は3で、最終的に評価委員会の方で4にして頂いたということです。
監事	そうでしょう。それが正解ですよ。今年だって同じでしょう。
事務局	ただ目標の黒字の確保というのは。
監事	それはついでに話しますけれども、47ページの上から5、6行目を見てもらいたいのですが、黒字経営の継続と経営基盤の更なる強化を至上命題としたとあるのです。これ、至上命題であってはならないですよ。黒字の確保って。これを至上命題にすると、粉飾決算をやりたくなりますよ。経理は。至上命題じゃないですよ。これ、民間企業だったら自分しか頼るものがないのですから、民間の病院だったら至上命題だと言ってもいいでしょう。行政上の病院だったら至上命題は極めて危険です。経営基盤の更なる強化は至上命題でいいのです。その黒字経営の継続はあくまで行政としての病院には理念であって、至上命題には絶対ならないですよ。私これを読んで、至上命題だと言い切ったから、それから3行目、4行目の「怯むことなく全員で知恵を絞り、予定入院患者の増強」、ちょっと意味がわかりません。予定入院

発言者	内 容
	患者の増強って何でしょうと。それから、手術体制の見直し、これもちよつとわからないのです。見直しによる診療単価の向上と収益構造の再構築を図ると言っているのですが、これは一般論として、事業会社の経理で言えば、なんか粉飾決算って見れるのです。粉飾決算を医業の中に持ち込むみたいな感じに見えてしまうのです。予定入院患者の増強ってどういうイメージなのですか？
事務局	救急患者が減っているものですから、自分たちでコントロールできる教育入院とかそういった患者さんを増やそうという、要は力の及ぶ範囲の入院患者を増やしましょうと。救急はなかなか我々の力が及びません。
監事	断らない医療というのは前からの理念でありましたよね。前から「断らないよ」というのを掲げてやっていたのだから。令和6年だけ、それをかなり多く断ったということはないのでしょうか？
事務局	ないのですが、ただそれに頼り切っていると、自分たちで入院患者が増やそうと思っても救急患者頼りということになる。そこはちょっと構造的に宜しくありません。
監事	そうしたら増強できないですね。
理事長	そこは増強はできるのですよ。去年の2024年度の病床稼働率というのが91%くらいでした。その前の3年間の平均よりは1.5%ぐらいのマイナスなのです。だからその1.5%を予定入院で埋めるということを意図して、こういうふうに書かれているので、今年の予算は93%で立てていますから、その1.5%分を予定入院として確保したい。そういうふうな意図なのです。
監事	だからその辺で私が言いたいのは、文章そのものに難癖をつけてしまいましたが、黒字経営の継続というのは理念として置いておいていいのだけれども、民間病院と違うのですから、民間病院は黒字じゃなかったら大変な話になりますから至上命題でいいのです。場合によっては粉飾決算で税金を動かしながらやらざるを得ないことだってあると思うのですが、市民病院の場合、税金は元々払ってないわけですから、市民病院単独で事業をやっているわけではないですから、あくまで市役所の行政目的を達成するための病院ですから、そうしたら、黒字経営というのは至上命題ではないと思うのです。そんなことで考えたら自己評価2というのはあまりに自虐的ではないかなと。自虐的だと思いますよ。初めて赤字決算になったと、大変なことをやってしまったと、それで萎縮してて、自虐的になって2にしたのではないかというふうに私には読めました。でもそうではないと思いますよ。絶対。
理事長	ご指摘ありがとうございます。最初は3だったのです。私が2にしようという話をして、それで2で出させて頂いているのですが、ただ令和3年度ですかね、いわゆる真水でプラスだった年がありました。やはり我々はそれを目標にしたいのです。いわゆる目標を達成できることが先生が仰る粉飾ではなくて、実質的に出来るのではないかというふうに私は思っていて、昨年の収支を見て頂いても、医薬材料比率は令和5年と令和6年はあまり変わらないのです。これはすごく努力して頂いたと思うのです。あとはやはり令和5年から6年にかけて病床稼働が1.5%落ちているので、そこが元に戻ると黒字になるはずなのです。そういうこともあって、また努力ができる範囲が十分あるので、それで今年度は評価が2とさせて頂いているのです。確

発言者	内 容
	かに市がやっている病院ということはあるのですが、その中でも皆さんがより高いところで目標にして頂いているので、そういうところでご了解頂けるといいかなと思います。黒字というのは至上命題というのは、ちょっと外しましょうかね。
監事	不採算ベースの活動でどれだけ市民に対して貢献してるのか、それを行政コストとして金額で表せば今廣瀬先生が仰ったように約8億円、そこに対してその8億円全額を本来は運営費負担金として背負い込むべきものなのです。それに対して、現実には5億6千万円くらい。そうすると、残りの2億4千万って何なのですか？僕から言えば、この組織で働いている人からの搾取ですよ。それを、この評価においてあえて黒字経営の継続っていうものを打ち出すのであれば、黒字経営の継続に対して大きなマイナス要因は何なのか。それは設立団体である市が本来負担すべき8億円のお金について僅か5億6千万しか負担していない。これを今年度赤字決算になったところの最大の要因は、運営費負担金の欠如にあるとズバリ言ってやることによって、それで要は、目標とするものは我々のこの組織から搾取するのはやめてくださいと。あるべき姿の上で負担金ちゃんと出してください。だって、この病院が地域医療の中核であることによって小山市という暮らしやすい街、安心・安全な街、そういったものに対してこの組織が貢献してるのでしょ？その貢献している組織体に対してなぜ設立団体の市が出せないのですかという。そういうふうな大上段に構えた運営費負担金の獲得交渉というか、応分の負担をすべきでしょうということところに、繋げて行ってほしいのです。ちょっとずれているかもしれませんが、この病院の中でどうしても救急の患者とかそういう4大疾病の関係でも、どうしたって高齢者、あるいは熟年から高齢者がどうしても患者群として多いですから、そこに中心がありますけど、やっぱりこの小山市という街がとにかく安心安全に暮らせる街だということを大々的にアピールしていく上では、やっぱり市民病院における小児医療と周産期医療も、市民に対する安心性と暮らしやすい街ということに貢献する医療分野として拡充されること・充実されることによって、健康都市小山市とかのそういったキャッチフレーズに繋がるし、人を呼び込むことにも繋がっていくと思うので、そういう視点からやっぱり運営費負担金はちゃんと出すべきでしょ、ということを強く言ってほしい。というのは思っていますので、ちょっと付け加えさせて頂きました。
理事長	私も、その通りだと思っています。小山市が出している運営費負担金というのは他の地方独立行政法人の病院に比べれば非常に低いです。だからそれはしっかりと交渉をしていかなければいけないというふうに思います。その負担金というのは既に決まってしまったので来年になるのですが、そういうところはしっかりやっていきたいと思っています。
事務局	廣瀬先生、岩瀬先生ありがとうございます。先生方に言って頂いた意見は、まさに思っていることでして、特に今までは結果的に黒字で余裕があるという見方の中で、なかなか運営費負担金交渉がうまくいかなかったところがございますが、本当に広瀬先生が言っていただいたように、昨年度は若干経営成績が落ちたとはいえ、稼働率93%で赤字になってしまうような構造的な問題がございまして、市の支援というよりも市の責務というところを廣瀬先生と岩瀬先生の今のご意見を監事意見としてまとめたものを使わせて頂きな

発言者	内 容
	がら、市には当病院を支えるための責務が必要ですよということを今後は交渉していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
監事	それからですね。参考として、補助金の推移なんですけど、要するに貰うべき補助金で貰っていない金額とか、それから過剰に貰った分の集計があるのですが、結論から申しますと、令和３年度、これはコロナの真っ最中なのですが、本来貰うべき補助金よりも多く貰っている分が４億７，７００万円あります。４億７，７００万円そっくり利益になっています。
事務局	議案２の後ろから２番目の議案第２号ですね。４０ページの方です。
監事	４０ページの最後の段落で、「第３期中期目標期間における経営努力」についてなのですが、この表の真ん中からちょっと下に、「住民等の負担に着せられるコスト」とあるのですが、それが令和３年は本来貰うべき補助金が４億７，７００万円、それから令和４年は４億１，３００万円貰うべきだったと。それから令和５年は５億８，１００万、そして令和６年は８億８００万円貰うべきだった。そういう数字が出てるのですが、実際に貰ったのは、令和３年は１３億円なのです。令和４年度は４億１，０００万円に対して７億６，０００万円貰っています。それから令和５年度は５億８，１００万円貰うべきところ、５億１，１００万円しか貰っていない。今期は８億８００万円貰うべきところ、５億２，４００万円しか貰っていない。これは補助金の交渉というのは年度の始めに行うし、それからこの住民の負担に着せられるコストというのは、決算を締めてみて初めて出てくるので、そのタイミングのずれというのは当然あるのですが、やっぱりそれは翌年の補助金交渉でしっかりと回収するということを基本に考えないと。そうすると、一方で黒字経営が至上命題であるというふうになってくると、給料なんか上がる余地はないですよ。絶対に。そこなんです、私は言いたいのは。一生懸命やっていて、誰のために何やってるのか、市民のためにやるのも大事ですけども、働いてる人間そのもの、十分満足とは言えないかもしれないけど、満足できる給料を取るべきだと思うのです。そこに繋げるためにどうしたらいいかってのも、市役所には言えないかもしれないけど、内部では考えるべきだと思うのです。以上でございます。
理事長	ありがとうございます。やっぱり、給料を削って黒字を出すっていうのは、明らかに間違った考え方なので、重要なお指摘をありがとうございました。令和８年度に向けて補助金の交渉というのはこれから始まるわけなので、先生のご意見を踏まえて、十分に病院のためになるように交渉を進めたいと思います。その黒字経営の継続は消しましょうか。
事務局	はい。
理事長	経営基盤の更なる強化は至上命題、これでいいですね。その前の４７ページ、黒字経営の継続を消して下さい。
事務局	年度計画には盛り込んでしまったものになるのですけれども。
理事長	なるほど。たださらっと変えてみてください。
事務局	はい。
理事長	あと自己評価はどうしましょうか。
監事	２は私はやりすぎだと思いますよ。ショックがあまりに大きくて、２にした。そうではないと思うのです。ここの表題は、経営基盤の維持と経営機能の安定化で欠損が１億あったからといって、現預金は４８億円あるのですよ。

発言者	内 容
	最初6億で始まった病院ですから。資本金6億で。それが現預金が48億円ありますから、一期・二期マイナスになったって経営基盤が震えることはないと思うのです。それを4から2にするのは何なのでしょうってことになったら、この赤字が、本当に病院の職員が働かないでちんたらちんたらやっていて、いろんな問題が続出して、それで利益が上がらなかったなら2でいいですよ。この本文に書いてあるように、この令和6年度は、物価、物流費の上昇、人手不足等に起因する材料費、経費等の負担が増大している。それからまた一般的な給料のアップですね。その辺でその経費が増えた理由もはっきりわかっている訳です。あくまでこれらはみんな外的要因です。そうしたら私は4でいいと思います。実態としては利益あるのですから。
理事長	ただ年度計画を超えて4になるので、元の提案をして頂いた3に戻しましょうか。
監事	それから収益の確保も3に下げてるのですが、収益は去年より上がってるではないですか。なんで評価を下げるのですか。
事務局	収支が悪くなってしまったということで。
監事	収益とは収入では、経費は関係ないですよ
事務局	ただそれを補うだけの収益を生めなかったという反省を。
監事	それはこっちに来るでしょ。1番（経営基盤の維持と経営機能の安定化）の方に。マイナスを打ってしまったから経営基盤がどうなのですかという部分でしょ。収益はどうなのですか、経費はどうなのですか、と分けてるじゃないですか。経営基盤の維持と経営機能の安定化というのが1にあって、2番が収益の確保と費用の節減というふうに分けて書いてるじゃないですか。ちょっと収益の方が去年より上がってますよ。
事務局	自己評価で4を付けるというのはなかなか憚られます。最終的に評価委員会で付けて頂くものですけれども、自己評価の段階で4にしてしまうというのはちょっと。
監事	結論的に、あまり自虐的な評価しないでよってことでしょうか。
監事	去年4なのですよ。去年より収益が上がっても。
事務局	去年も3で付けたのですけども、4にして頂いたという結果でした。
監事	それが去年の評価なのでしょう。確定した。それを基準にして考えて何で3に下げるのですかということを行っているわけです。
理事長	去年も自己評価が3だったのですよね。収益に関しては。
監事	小山市で4にしてくれたのだから、それが確定でしょう。それと比べて何で3なのですかということです。去年より収益上がっていますよ。
事務局	結果的にはそうですけど、ただ、収益は上がったのですけども、黒字を確保するだけの収益が確保できなくて。
監事	黒字が確保できなかった要因は何かと言っても、病院のせいではないのですよ。外的要因である市が、負担金で負担すべきお金を負担していない。その結果として赤字になったといっても、全然病院の責任ではない。
事務局	それはありがたいことですが、モラルハザードの部分があります。
理事長	いずれにしても3というのが年度計画の通りなので、だからそこも3で、最初の財政基盤のところも3、それで市に評価して頂くという形でよろしいですか？その辺はなかなか自己評価とは高くは付けにくいところで、私も評価委員会をやっていたときに思ったのは、自己評価とはすごく燻して付けて

発言者	内 容
	らっしゃるなんて思ったところがあって、今年度２０２５年度の時に、しっかりと、財政基盤の安定化というところが４になるように目指してということで、今年は昨年同様に３でよろしいですか？ありがとうございます。それでは４６ページのところを少しそういう形で改定をして出させて頂くということにしたいと思います。
	(異議なく了承)
事務局	議案第２号「第３期中期目標期間に係る業務実績報告について」事務局より説明。
理事長	第３期中期計画の評価は全体としてＢとしているということで、第１期と第２期はどうだったのでしょうか。
事務局	第１期と第２期につきましては、全体的にＢなのですが、財務内容の改善に関する事項だけＡで出しています。
理事長	これはまた評価委員会で審議して頂くということですね？
事務局	はい。あくまでも自己評価に対してということです。
理事長	先ほどの改定を反映させて頂いて、数字の変更もお願いします。
	(異議なく了承)
事務局	議案第３号「地方独立行政法人新小山市市民病院契約規程の一部を改正する規程について」事務局より説明。
	(異議なく了承)
事務局	議案第４号「地方独立行政法人新小山市市民病院使用料等に関する規程の全部を改定する規程について」事務局より説明。
理事	２０ページの主治医意見書の「主」の字が消えているので修正をお願いします。あと医療系のネットの方であったのですが、生活保護の方の医療要否意見書のお金の方はどうなっているのでしょうか。文書料金として入っているのでしょうか。
事務局	後で確認をしておきます。この一覧の中には載っておりません。
理事	医療機関がただ働きさせられているのではないかといったそういう意見も載ってありましたので、どうなのかなと思いました。
理事長	後で確認して報告致します。今回の改定で、１，１００万円程度の増収が試算されています。
	(異議なく了承)
事務局	議案第５号「地方独立行政法人新小山市市民病院組織に関する規程の一部を改正する規程について」事務局より説明。※資料一部文言の修正（Ｐ１の見出し「契約規程」→「組織に関する規程」）
監事	施行日を１０月１日にしたのは区切りのいいようにということですか？半年後の前半後半で分けたような。
事務局	そうです。
	(異議なく了承)
事務局	議案第６号「高額医療機器の購入について」事務局より説明。
理事長	当院の医療機器の減価償却は６年でしたか？
事務局	６年です。
理事長	当院の内視鏡のなかで、超音波のものはありますか。
理事	ないです。

発言者	内 容
理事長	初めてということですね。呼吸器外科のほか、消化器内科も一緒に使って頂けるといいますか？
理事	使うスコープはまた別に購入することになっています。その予算はついています。
事務局	今年の予算に入っております。
	(異議なく了承)
事務局	報告第1号「地方独立行政法人新小山市市民病院会計規程の一部を改正する規程について」事務局より説明。
	<その他報告について>
事務局	調べましたところ、医療要否意見書は今のところ無償交付ということで対応してまして、小山市と栃木県医師会も医療扶助が円滑に進むようにということで無償の交付をお願いしている状況になっております。
理事長	それは全国的な仕組みになっているのでしょうか。
事務局	自治体と医療機関で協議は続いていて、郵送代については行政が負担する傾向にはなっていますが、文書料金についてはほとんどのところが無償となっています。
理事長	現状そういうところですから、交渉ということにはならないでしょう。将来的に一つの懸案事項ということで今後検討ということにしたいと思えます。
	(報告終了にて閉会)

以 上